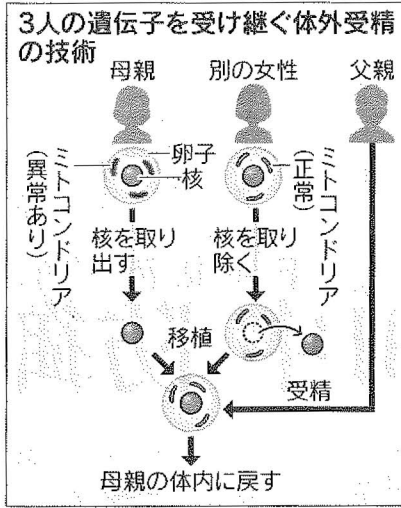


3人の遺伝子持つ子誕生

遺伝性難病の回避目的

米医師ら担当
メキシコ

【ワシントン＝川合智之】英科学誌ニュー・サイエンティストによると、米ニューヨークの不妊治療病院の医師らが難病の治療を目的に、3人の遺伝子を持つ子供を誕生させていたことが明らかになった。子供を誕生させることが目的ではない同様の研究計画は検討されていたが、実際に子供が生まれたのは初めてとみられる。生命倫理などを巡って議論を呼びそうだ。



生命倫理など課題も

担当したのはニューホ
ープ不妊治療センターの
ジョン・ザン医師ら。両
親はヨルタン人で、4月
に男児が誕生した。健康
状態は良好という。

母親には「リー症候群」という遺伝する神経系障
害があり、これまで流産
をくり返していたほか、
出産した2人の子供を亡
くしていたという。

原因遺伝子は細胞の中
のミトコンドリアという

別の女性の卵子に移植し、父親の精子と受精させ、母親の体内に戻した。男児は核のDNAは両親、ミトコンドリアDNAは提供者の女性から受け継いだ。米国では認められていない治療のため、規制が未整備というメキシコで実施した。

同様の疾患を持つ親にとって朗報となる可能性がある。米生殖医学会のオーウェン・デービス会長は27日、「生殖医学にとって重要な進展だ」とする声明を発表した。ザン医師は10月に米ユタ州で開く同学会の会合で治療の詳細を発表する。

一方で、こうした技術は子供に希望通りの外見や能力を持たせる「デザイナードベビー」に応用さ

れる恐れもある。同様の治療を生命倫理上認めてよいのか、「子供の親は誰なのか」といった社会制度面の課題が今後出てきそうだ。